

ARTIFACT SHEET

Enter artifact number below. Artifact number is application number + artifact type code (see list below) + sequential letter (A, B, C ...). The first artifact folder for an artifact type receives the letter A, the second B, etc.. Examples: 59123456PA, 59123456PB, 59123456ZA, 59123456ZB

Indicate quantity of a single type of artifact received but not scanned. Create individual artifact folder/box and artifact number for each Artifact Type.

CD(s) containing:

computer program listing

Doc Code: Computer

Artifact Type Code: P

pages of specification

and/or sequence listing

and/or table

Doc Code: Artifact

Artifact Type Code: S

content unspecified or combined

Doc Code: Artifact

Artifact Type Code: U

Stapled Set(s) Color Documents or B/W Photographs

Doc Code: Artifact Artifact Type Code: C

Microfilm(s)

Doc Code: Artifact Artifact Type Code: F

Video tape(s)

Doc Code: Artifact Artifact Type Code: V

Model(s)

Doc Code: Artifact Artifact Type Code: M

Bound Document(s)

Doc Code: Artifact Artifact Type Code: B

Confidential Information Disclosure Statement or Other Documents
marked Proprietary, Trade Secrets, Subject to Protective Order,
Material Submitted under MPEP 724.02, etc.

Doc Code: Artifact Artifact Type Code X

Other, description:

Doc Code: Artifact Artifact Type Code: Z

⑯ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭55—33448

⑬ Int. Cl.³
A 61 K 7/00

識別記号

厅内整理番号
7432-4C

⑭ 公開 昭和55年(1980)3月8日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 9 頁)

⑮ 改良されたW/O型クリーム

⑯ 特 願 昭53—106740
⑰ 出 願 昭53(1978)8月31日
⑱ 発明者 栗山昭二郎

⑲ 出願人 小田原市寿町5丁目16番5号
鐘紡株式会社
東京都墨田区墨田5丁目17番4号
⑳ 代理人 弁理士 足立英一

明細書

1. 発明の名称

改良されたW/O型クリーム

2. 特許請求の範囲

(1) 乳化剤として、ポリオキシアルキレンアルカノールアミドとポリオール脂肪酸エステル型非イオン界面活性剤を含有しており、そして含水量が5.5～9.0重量%で、含有油分量が6～40重量%であることを特徴とする改良されたW/O型クリーム。

(2) 含有水分量が、5.7～8.0重量%である特許請求の範囲第(1)項記載のW/O型クリーム。

(3) ポリオキシアルキレンアルカノールアミドが、
ポリオキシエチレン脂肪酸モノエタノールアミド、
(オキシ)
ポリプロピレン脂肪酸モノエタノールアミド、
ポリオキシエチレンーポリオキシプロピレン脂肪酸
モノエタノールアミド、ポリオキシエチレン脂肪
酸モノイソブロハノールアミド、
(ポリオキシエチレンポリオキシプロピレン脂肪酸モノイソブロハノールアミド)
ポリプロピレン脂肪酸モノイソブロハノールアミド、
ポリオキシエチレン脂肪酸エタノールアミド、
ポリ

オキシプロピレン脂肪酸エタノールアミド、
ポリオキシエチレンーポリオキシプロピレン脂肪酸
エタノールアミド、ポリオキシエチレン脂肪酸ジ
イソブロハノールアミド、ポリオキシプロピレン
脂肪酸ジイソブロハノールアミド、
ポリオキシエチレンーポリオキシプロピレン脂肪酸ジイソブロ
ハノールアミドからなる群から選択された化粧品の
少なくとも一つである特許請求の範囲第(1)項記載
のW/O型クリーム。
(4) ポリオキシアルキレンアルカノールアミドが、
0.2～5重量%含有されている特許請求の範囲第
(1)項記載のW/O型クリーム。
(5) ポリオール脂肪酸エステル型非イオン界面活
性剤が、ソルビトール、ソルビタン、グリセリン、
ジグリセリン、マンニトール、ベンタエリスリトール、
プロピレングリコール又はジプロピレングリコールと、アルキル基又はアルケニル基の炭素数
が11～22の脂肪酸とからなるエステル及びは
それらの組合せである特許請求の範囲第(1)項記載

のW/O型クリーム。

(6) ポリオール脂肪酸エステル型非イオン界面活性剤が、1~7重量%含有されている特許請求の範囲第(1)項記載のW/O型クリーム。

(7) 油分が、10~57重量%含有されている特許請求の範囲第(1)項記載のW/O型クリーム。

(8) 油分が、液状又はペースト状の炭化水素、直鎖構造の脂肪酸エステル油、分枝構造の脂肪酸エステル油、ワックス類、植物油、動物油、植物油本添物、動物油本添物或いはそれらの組合せである
(記載)
特許請求の範囲第(1)項のW/O型クリーム。 25特

3. 発明の詳細な説明

本発明は、含有水分量が多く、保存安定性、保湿性、肌なじみ、感触等の良好なW/O型(油中水滴型)のクリームに関する。

従来、クリームのベースとしては、一般にW/O型エマルジョンの方がO/W型(水中油滴型)エマルジョンよりも皮膚の保護や柔軟性の維持等の多くの点で優れていることがよく知られている。しかしながらW/O型エマルジョンは品質の安定

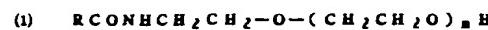
性等にいくつかの問題点があり、その安定性を向上するために油分(油性物質)の量を増したり、粘度を高める等の方法で安定性を改良しているが、その結果クリームが必要以上にべたつき易い曲っぽい等の欠点が現われ消費者にきらわれることがある。またべたつきや曲っぽさを改良するために多量(40~50重量%)の水分を配合する方法も研究されているが、長期保存すると、O/W型に転相したり、水分が分離する等安定性がわるく外観を損う等の問題があり、未だ満足すべき方法が見出されていない。

本発明者は、かかる現状に鑑み、試験研究した結果、乳化剤として**ポリオキシアルキレン**ポリオール脂肪酸エステル型非イオン界面活性剤を併用する場合は、水分を多量(55~92重量%)配合しても保存安定性の優れた均一なW/O型クリームが容易に得られることを見出し本発明を完成した。

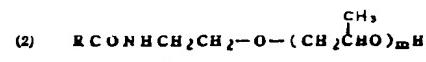
本発明の目的は、含有水分量が多く、保存安定性、均一性に優れ、皮膚に対して無刺激性でかつ

良好な感触、保湿効果、親和性、荒れ止め効果を与えるW/O型クリームを提供することにある。すなわち、本発明は乳化剤としてポリオキシアルキレンアルカノールアミドとポリオール脂肪酸エステル型非イオン界面活性剤を含有しており、そして含有水分量が55~92重量%で、含有油分量が6~40重量%であることを特徴とするW/O型クリームである。

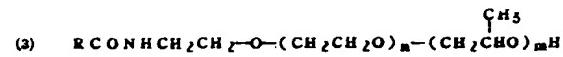
本発明のW/O型クリームに使用(含有)されるポリオキシアルキレンアルカノールアミドとしては、⁽¹⁾例えば下記の各一般式で示される各化合物が好ましく、これらの単独又は二種以上の組合せて適量される。



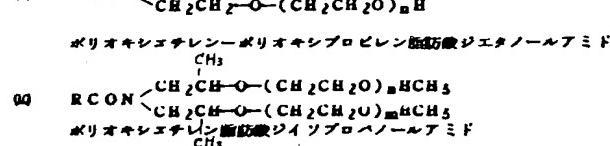
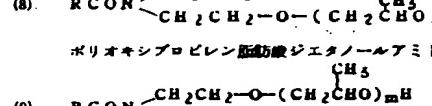
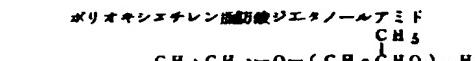
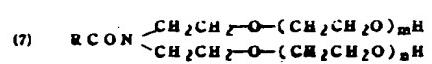
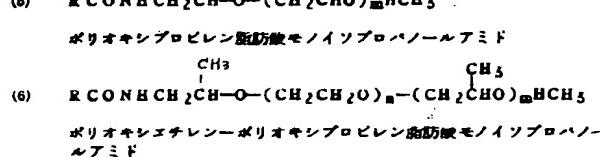
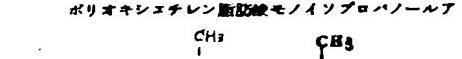
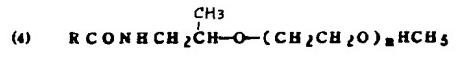
ポリオキシテレン脂肪酸モノエタノールアミド

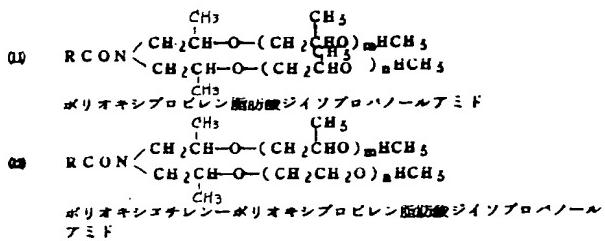


ポリオキシプロピレン脂肪酸モノエタノールアミド



ポリオキシテレン-ポリオキシプロピレン脂肪酸モノエタノールアミド





(但し上記の各一般式中で m は炭素数6~22のアルキル基又はアルケニル基で、 n は2~10の整数、 p は2~10の整数である。) ポリオキアルキレンアルカノールアミドは一種以上又は二種以上組合せて使用され、その使用量(含有量)は組成物重量に対しても2~5重量%、好ましくは0.5~2.5重量%である。且つ重量%よりも少ないと組成物の保存安定性が低下する傾向があり、5重量%よりも多くなると組成物の保存安定性が極く皮膚に対する刺激性があり、感触も悪くなき易い。

ポリオール脂肪酸エステル型非イオン界面活性剤としては、ソルビトール、ソルビタン、グリセリン

、ジグリセリン、マンニトール、ベンタエリスリトール、プロピレングリコール、またはジプロピレングリコールと、アルキル基またはアルケニル基の炭素数が11~22の脂肪酸とからなるエステルが好ましく、例えばモノオレイン酸ソルビトール、モノオレイン酸ソルビタン、モノオレイン酸グリセリン、モノオレイン酸ジグリセリン、モノオレイン酸マンニトール、モノオレイン酸ベンタエチルソルビトール、モノオレイン酸ジプロピレングリコール、ジオレイン酸ソルビタン、ジオレイン酸ソルビトール、ジオレイン酸グリセリン、ジオレイン酸ジグリセリン、ジオレイン酸マンニトール、ジオレイン酸ベンタエチルソルビトール、ジオレイン酸ジプロピレングリコール、トリオレイン酸ソルビトール、トリオレイン酸ソルビタン、トリオレイン酸ジグリセリン、トリオレイン酸マンニトール、モノステアリン酸ソルビトール、モノステアリン酸ソルビタン、モノステアリン酸グリセリン、モノステ

アリン酸ジグリセリン、モノステアリン酸マンニトール、モノステアリン酸プロピレングリコール、モノステアリン酸ジプロピレングリコール、ジステアリン酸ソルビトール、ジステアリン酸ソルビタン、ジステアリン酸ジグリセリン、ジステアリン酸マンニトール等を挙げることができる。

ポリオール脂肪酸エステル型非イオン界面活性剤は一種又は二種以上組合せて使用され、その使用量(含有量)は、組成物重量に対して1~7重量%好ましくは2~5重量%である。

1重量%よりも少ないと組成物の保存安定性がわるくなりやすく、7重量%よりも多くなると保存安定性及びクリームの肌目(均一性)がわるくなりやすい。

水の含有量は、組成物重量に対して55~90重量%好ましくは57~80重量%である。55重量%より少なくなると油性状の強い製品になり易く、また90重量%より多くなると組成物の安定性が悪くなる。

本発明に使用する油分(油性物質)はクリーム

に慣用される油性物質であって、例えば液状又はペースト状の炭化水素、直鎖構造の脂肪酸エステル油、分岐構造の脂肪酸エステル油、ワックス類、植物油、動物油、礦物油水添物、動物油水添物等を挙げることができる。

液状またはペースト状の脂肪族炭化水素とは、常温下で液状またはペースト状を呈しかつ化粧料の添加成分として公知の脂肪族炭化水素であって、例えば流動パラフィン、スクワラン、ブリストン、ポリイソブレンの本邦添加物炭素数5~11との1-オレフィンのオリゴマーまたはその水添物等が好ましいものとして例示される。更に具体的なものとして流動パラフィン(軽油、中油、重油)、スクワラン、合成スクワラン、ブリストン、オクテーン-1の重合物(油)、ドデセナー-1の重合物(油)2, 6, 15, 19, 25-ヘキサメチルテトラコサン、液状ポリイソブチレン液状ポリイソブテン、ペトロラータム、ワセリン等を例示することができる。

また直鎖構造の脂肪酸エステル油としては、例え

はブチルステアレート、ヘキシルラクレート、ブチルパルミテート、ブチルミリスチート、ヘキシルステアレート、ヘキシルパルミテート、ヘキシルミリスチート、ブチルオレート、ヘキシルオレート、ヘキサデシルアジペートを挙げることができる。

本発明に使用する分岐鎖構造を有する脂肪酸エステル油とは、脂肪酸残基または／およびアルコール残基のアルキル基あるいはアルケニル基が分岐鎖構造を有する公知の脂肪酸エステル油であって、例えばイソプロピルイソステアレート、イソプロピルヨーステアレート、モノ-2-エチルヘキシルサクシネット、ジ-2-ヘキシルデシルセバケート、ジ-オクチルドデシルセバケート、ジイソステアリルサクシネット、ジ-2-エチルヘキシルサクシネット、イソプロピルミリスチート、イソプロピルパルミテート、2-ヘキシルデシルパルミテート、イソノニルイソノネット、ジ-2-ヘキシルデシルパルミテート、イソノニルイソノネット、

イソデシルイソノネット、イソトリデシルノネット、ジイソプロピルアジペート、ジ-2-エチルヘキシルアジペート、ジイソプロピルセバケート、2-エチルヘキシルパルミテート、オクチルドデシルミリスチート、2-ヘキシルデシルイソステアレート、2-オクチルドデシルイソステアレート、ジーステアリルマレート、ジ-イソステアリルタートレート、イソミリスチルイソミリスチート、2-ヘキシルネオデカノエート、イソステアリル2-エチルヘキシルヘキサネット、2-オクチルドデシル2-エチルヘキサネット、イソプロピルイソステアレート、イソブチルイソパルミテート、イソブチルイソステアレート、イソブチルイソエイコサネット、オクチルドデシルミリスチート、あるいはそれらの組合せが好ましいものとして例示される。その他、バーセリンソリッド、カルナウバワックス、酸ロク等を使用することができる。

前記の油性物質は一種又は二種以上組合せて使用され、その使用量（含有量）は、組成物重量に対して、6～40重量%，好ましくは10～37

重量%である。6重量%よりも少なくなると親油性クリームとしての機能がなくなり、親水性のクリームとなり易く、保有安定性の低下や転相を起し易くなる場合があり、また40重量%よりも多くなると、保存安定性、肌なじみ（親和性）が低下したり、油性感が強過ぎ、しつとり感がなくなり易い。

本発明のW/O型クリームは、所要量のアルキロールアミドとポリオール脂肪酸エステル型非イオン界面活性剤と油性物質とからなる均一混合物の85～95℃熱融液に、水85℃～90℃を攪拌下に混台し、香料、防腐剤を入れ室温まで冷却攪拌することによって製造される。

本発明は、乳化剤として含有する脂肪酸アルカノールアミドとポリオール脂肪酸エステル型非イオン界面活性剤の併用による相乗的作用効果によって多量（55～92重量%）の水分を安定に含有せしめると共に保存安定性、均質性の優れたW/O型クリームを形成することができる。このW/O型クリームは水分を多量含有しているにも

拘らず、長期（約2年間）保存しても油が漏出したり（しみ出たり）、転相して水分が分離することなく極めて安定で、肌目細かく乳白美麗な外観とW/O型の乳化系（電気伝導度は0）を保持し、しかも皮膚に対して無刺激性で良好な感触（しっとり感を与へべと付き感覚バネとした感触を与えない等）保湿効果、親和性、荒れ止め効果柔軟性、なめらかさを付与で得る商品価値の極めて高いものである。

以下本発明の実施例を説明する。尚実施例で部とは重量部、%とは重量%を意味する。

実施例1

(1) 本発明のW/O型クリームの組成

1. ポリオキシエチレンラクリン酸ジエタノールアミド(38.0) (純分)	1.0部
2. 流動パラフィン(セイボルト7.0)(純分)	1.5部
3. 密ロウ(純分)	1.0部
4. セスキオレイン酸ソルビタン(純分)	1.5部
5. ブチルパラベン	0.3部
6. 香料	0.1部
7. 水	70.6部

(2) 本発明のW/O型クリームの製造

ポリオキシエチレンラタリン酸ジエタノールアミドと複数バラブン、密ロウとセスキオレイン酸ソルビタンと防腐剤とを加え85℃～90℃にて均一融解液に、水85℃～90℃を徐々に搅拌しながら加えて乳化し、室温まで冷却する。その後香料を搅拌しながら混合する。

実施例2

(1) ポリオキシプロピレンオレイン酸モノエタノールアミド(2EO) (純分)	0.4部
(2) ポリイソブテン	(純分) 2.0部
(3) 密ロウ	(純分) 8部
(4) モノオレイン酸マニトール	3.6部
(5) ブチルパラベン	0.1部
(6) 香料	0.1部
(7) 水	67.8部

実施例1の製造方法に準じてW/O型クリームを得た。

実施例3

(1) ポリオキシエチレンポリオキシプロピレンミリスチン酸イソプロパノールアミド (4EO)(純分) 0.6部	
--	--

(3) 比較例4として、セスキオレイン酸ソルビタンの一部をステアリン酸アルミニウム塩を一部を置きかえる他は、本発明実施例1と同様に行なった。

次に本発明例と、比較例の各クリームの保存安定性、外観、官能試験(しつとり感、保濕効果、肌なじみ、荒れ止め効果)についてしらべた。それらの結果を第1表に示した。尚、第1表中の外観は肉眼観察、保存安定性は-10℃で2週間、45℃で2週間のサイクルで6ヶ月間恒温室に保存した時の状態が油がしみたり、水が分りしたり、顔料がわいたりした場合不安定、色も匂いも変化せず均一仕上様のクリームの状態を安定とした。官能試験は35才～45才の女性20名をパネルとして行ない数字は良いと答えた人数である。

以下余白

(2) ブチルステアレート	(純分)	1.7部
(3) 密ロウ	(純分)	4部
(4) 密ロウ	(純分)	6部
(5) モノオレイン酸ジグリセリン(純分)		4部
(6) ブチルパラベン(純分)		0.1部
(7) 香料		0.1部
(8) 水		68.2部

実施例1の製造法に準じてW/O型クリームを得た。

比較例1～比較例4

- 比較例1として、ポリオキシエチレンラクリン酸ジエタノールアミドの代りに、ポリオキシエチレンラクリルエーテル(5EO)を使用する他は、本発明実施例1と同様に行なった。
- 比較例2としては、ポリオキシエチレンラクリン酸ジエタノールアミドを使用しない他は、本発明実施例1と同様に行なった。
- 比較例3として、セスキオレイン酸ソルビタンを使用しない他は、本発明実施例1と同様に行なった。

外観	保存安定性 (6ヶ月後)	本発明 実施例1 W/O型 クリーム		比較例1 実施例2 W/O型 クリーム		比較例2 実施例3 W/O型 クリーム		比較例3 実施例4 W/O型 クリーム	
		安定	不安定	安定	不安定	安定	不安定	安定	不安定
肌のなじみ	1.0	1.9	4.0	1.9	5	2.0	4	1.9	2
保湿効果	1.9	1.9	4	1.9	0	2.0	2	1.9	2
肌なじみ	2.0	1.9	4	2.0	2	2.0	2	1.9	2
荒れ止め効果	1.9	2.0	4	1.9	2	1.9	2	1.9	2
肌のなじみ	1.9	1.9	4	1.9	0	1.9	0	1.9	2
肌のなじみ	1.9	1.9	4	1.9	0	1.9	0	1.9	2
色	W/O	W/O	W/O	W/O	W/O	W/O	W/O	W/O	W/O
状態	均一	均一	均一	均一	均一	均一	均一	均一	均一

(注) 脂肪酸テスト

オリエンパス脂肪酸で倍率400倍に於て各試料を観察し均一とあるのは粒子がきれいで重つており、不均一とあるのは粒子が盛っていられない状態を示す。

染着法

各試料を約1タ時計盤上に取り、オリーブ油に立1倍スタンプ(赤色225号)をとかしてその部液1タを試料へ接近させて流すとき赤色が試料へそまってきれいに染るときを染色、やゝ赤がり染るときを半染色、全然赤がらない状態を無染とした。

状態

W/O: 脂油状態を示す。

O/W: 水油状態を示す。

この結果から明らかのように、本発明の実施例1, 2, 3のクリームは、比較例の構成成分に比較して親油性、保存安定性、官能性が著しく優れてい。そして本発明の構成成分の代りに、親極性成分を混用しても良好なW/O型クリームが得られ

ない。

実施例4

ボリオキシエチレンラクリン酸ジェタノールアミド(380)の含有量を第2表の如く変化させた他は、本発明実施例1と同様に行なった。その結果を第2表に示した。

第2表

ボリオキシエチレンラクリン酸ジェタノールアミドの含有量%	保存安定性 (6ヶ月後)	脂肪酸テスト	色素法
0	不安定	不均一	無染
0.1	+	+	+
0.2	安定	均一	微染
0.3	+	+	赤染
0.4	+	+	+
0.5	+	+	+
1	+	+	+
1.5	+	+	+
2	+	+	+
2.5	+	+	+
3	+	+	微染
3.5	不安定	不均一	無染

次に第3表として官能試験の結果を示す。

第3表

ボリオキシエチレンラクリン酸ジェタノールアミドの含有量%	肌なじみ	ネバネバしない	保溼効果
0	0	0	0
0.2	11	12	14
0.4	18	18	19
0.6	19	18	19
1.	20	19	19
2	18	18	17
2.5	17	16	15
3	15	14	13
3.5	0	0	2

この第2表、第3表の結果から明らかのようにボリオキシエチレンラクリン酸ジェタノールアミドの含有量は0.2~3%、好ましくは0.3~2.5%である。

実施例5

セスキオレイン酸ソルビタンの含有量を第4表の如く変化させかつ全量が100部になるように

重量で調整する他は、実施例1の本発明と同様に行なった。

第4表

セスキオレイン酸ソルビタンエステルの含有量%	保存安定性 (6ヶ月)	脂肪酸 テスト	色素法
0	不安定	不均一	無染
1	安定	均一	微染
2	+	均一	赤染
3	+	+	+
4	+	+	+
5	+	+	+
6	+	+	+
7	+	+	+
8	不安定	不均一	無染

この結果から明らかのようにセスキオレイン酸ソルビタンエステルの含有量は1~7%、好ましくは2~5%である。

実施例6

油性物質(運動パラフィンと樹脂の重量混合

比1.5倍の混合物)の含有量を第5表の如く変化し、かつその全量が100%になるように水槽で調整する他は実施例1と同様に行なった。その結果を第5表に示した。

(以下余白)

第5表

油性物質 (¹ 種)バフリン密ロク 含有量%	保存安定性 (6ヶ月後)	調査法 テスト	乳化性 及み人		保藏 効果	ヨリヨリしない 度
			均一	偏重		
4	不安定	不均一	偏重	偏重	3	0
6	安定	均一	偏重	偏重	1.5	1.1
8	安定	均一	偏重	偏重	1.7	1.5
10	安定	均一	偏重	偏重	1.7	4.7
15	安定	均一	偏重	偏重	1.8	1.8
20	安定	均一	偏重	偏重	1.8	1.8
25	安定	均一	偏重	偏重	2.0	1.9
30	安定	均一	偏重	偏重	1.9	1.6
35	安定	均一	偏重	偏重	1.9	1.6
40	安定	均一	偏重	偏重	1.7	1.7
45	不安定	不均一	偏重	偏重	1.4	1.4

この結果から明らかなように、油性物質(流動バフリン密ロク)の含有量が6~10%程度ましくは10~35%である。

実施例7

セスキオレイン酸ソルビタンの代りに、モノオレイン酸ソルビトール、モノオレイン酸ソルビタン、モノオレイン酸グリセリン、モノオレイン酸ジグリセリン、モノオレイン酸マンニトール、モノオレイン酸ベンタエチルスリトール、モノオレイン酸プロピレングリコール、モノオレイン酸ジプロピレングリコール、ジオレイン酸ソルビタン、ジオレイン酸ソルビトール、ジオレイン酸グリセリン、ジオレイン酸ジグリセリン、ジオレイン酸マンニトール、ジオレイン酸ベンタエリスリトール、ジオレイン酸プロピレングリコール、トリオレイン酸ソルビトール、トリオレイン酸ソルビタン、トリオレイン酸ジグリセリン、トリオレイン酸マンニトール、モノステアリン酸ソルビトール、モノステアリン酸ソルビタン、モノステアリン酸グリセ

リン、モノステアリン酸マンニトール、モノステアリン酸プロピレングリコール、モノステアリン酸ジプロピレングリコール、ジステアリン酸ソルビトール、ジステアリン酸ソルビタン、ジステアリン酸ジグリセリン、ジステアリン酸マンニトールを使用する他は実施例1と同様に行なった。その結果、得られた何れのクリームも実施例1クリームと同様に、均一な油中水滴型エマルジョンを形成しており、6ヶ月後も安定で、異常が見られなかった。また官能テストの結果も良好であった。

実施例8

ボリオキシエチレンラウリン酸ジェタノールアミド(520)の代りにボリオキシエチレンの直合度を第6表の如く変化させる他は、実施例1の本発明と同様に行なった。

(以下余白)

実施例1と同様に行なった。

得られた各クリームの結果を第7表に示した。

第6表

ポリオキシエチレンの重合度%	外観	保存安定性	調査箇	色素法	状態	W/O	
						6ヶ月後	テスト
0	白色	安定	均一	無染	W/O		
2	・	・	・	・	・		
4	・	・	・	・	・		
6	・	・	・	・	・		
8	・	・	・	・	・		
10	・	・	・	・	・		
12	黄色	不安定	不均一	無染	W/O		

この結果から明らかなよう、ポリオキシエチレンアルカノールアミドにおけるオキシエチレン鎖 $[(CH_2CH_2O)_n]$ のnは10以下が好ましい。

実施例9

流动パラフィン15部、密ロタ10部、水70部、セスキオレイン酸ソルビタン5部の代りに、水、流动パラフィンと密ロタの混合物（重量混合比1.5対1）及びセスキオレイン酸ソルビタン（Aと略記）を第7表に示す各量使用する他は、実

第7表

水分	油分	A	安定性 (6ヶ月後)	調査箇 テスト	色素法	肌なじ み良い	保湿 効果	オバネバ しない
5.0	4.4	4	不安定	不均一	無染	4	4	5
5.5	4.0	5.8	安定	均一	微染	14	15	15
5.7	3.7	4	・	・	無染	18	17	16
6.0	3.4	4	・	・	・	19	18	17
6.5	2.9	4	・	・	・	20	19	18
7.0	2.4	4	・	・	・	20	19	18
7.5	1.9	4	・	・	・	19	18	18
8.0	1.5	5	・	・	・	18	18	18
9.0	6	5	・	・	微染	15	14	15
9.5	5	5	不安定	不均一	無染	2	5	1

この結果からも明らかのように、水の含有量は5.5~9.0%、好ましくは5.7~8.0%である。

実施例10

ポリオキシエチレンラクリン酸ジェタノールアミドの代りに、ポリオキシエチレンバルミチン酸

5

ジェタノールアミド（5 EO）、ポオキシエチレンステアリン酸ジェタノールアミド（5 EO）、ポリオキシエチレンーラクリン酸モノエタノールアミド（5 EO）、ポリオキシエチレンラクリン酸モノイソプロパノールアミド（5 EO）、ポリオキシエチレンラクリン酸ジイソプロパノールアミド（5 EO）、ポリオキシエチレンベヘニン酸ジェタノールアミド（5 EO）、ポリオキシエチレンオレイン酸酸モノエタノールアミド（5 EO）を使用する他は実施例1と同様に行なった。得られた各クリームは何れも均一な油中水滴型エマルジョンを形成しており、安定性6ヶ月後も安定で異常が見られなかった。また官能テストの結果も20名中18人以上が保湿効果、しっとり感、肌なじみが良かったと答えている。

実施例11

ポリオキシエチレンラクリン酸ジェタノールアミドの代りに、ポリオキシプロピレンラクリン酸ジェタノールアミド（5 PO）、ポリオキシプロピレンオレイン酸ジェタノールアミド（4 PO）

ポリオキシプロピレンベヘニン酸ジェタノールアミド（6 PO）、ポリオキシエチレン（5 EO）、ポリオキシプロピレン（2 EO）ラクリン酸ジェタノールアミド、ポリオキシエチレン（5 EO）一ポリオキシプロピレン（4 PO）一オレイン酸モノエタノールアミド、ポリオキシエチレン（5 EO）一ポリオキシプロピレン（3 PO）一ベヘニン酸ジェタノールアミド、ポリオキシエチレン（2 EO）一ポリオキシプロピレン（2 PO）一ラクリン酸ジイソプロパノールアミド、ポリオキシエチレン（5 EO）一ポリオキシプロピレンーラクリン酸モノイソプロパノールアミドポリオキシエチレン（5 EO）一ポリオキシプロピレンオレイン酸ジェタノールアミドを使用する他は実施例1と同様に行なった。

得られた各クリームは実施例1のクリームと同様な均一なW/O型エマルジョンで6ヶ月後も安定で異常が見られなかった。また官能テストも20名中18人以上が保湿効果、しっとり感、肌なじみが良いと答えている。

実施例12

密ロウ10部と流動パラフィン15部の代りに、ソクラン、ブリスタン、ペトロラーム、ワセリン、ブチルステアレート、ヘキシルラウレート、ブチルバルミテート、ヘキシルステアレート、ヘキシルバルミテート、ヘキシルミリスティート、ブチルオレート、ヘキサデシルアジベート、イソブロビルイソステアレート、イソブロビルローステアレート、モノ-2-エチルヘキシルサクシネット、ジ-2-ヘキシルデシルセバケート、ジ-オクチルトデシルセバケート、ジイソステアリルサクシネット、ジ-2-エチルヘキシルサクシネット、イソブロビルミリスティート、イソブロビルバルミテート、2-ヘキシルデシルバルミテート、ジ-2-ヘキシルデシルバルミテート、イソノニルイソノネット、ジ-2-ヘキシルデシルバルミテート、イソノニルイソノネット、イソデシルイソノネット、イソトリデシルノネット、ジイソブロビルアジベート、ジ-2-エチルヘキシルアジベート、ジイソブロビルセバケート、2-エチル

ヘキシルバルミテート、オクチルドデシルミリスティート、2-ヘキシルデシルイソステアレート、イソステアリルイソステアレート、2-オクチルデシルイソステアレート、ジーステアリルマレート、ジ-イソステアリルタートレート、イソミリスチルイソミリスティート、2-ヘキシルネオデカノネット、イソステアリル2-エチルヘキシルヘキサネット、2-オクチルドデシル2-エチルヘキサネット、イソブロビルイソステアレート、イソブチルイソバルミテート、イソブチルイソステアレート、イソブチルイソエイコサネット、オクチルドデシルミリスティート、バーセリン油、バーセリンソリッドを使用する他は実施例1と同様に行なった。その結果得られた何れのクリームも実施例1のクリームと同様に均一な水中細胞型エマルジョン（色素法で赤染）を形成しており、6ヶ月後の安定性も異状が認められなかった。また官能テストの結果も20名中17人以上が保湿効果しっとり感、肌なじみ、疲れ止め効果、オバキハシナ、肌のなめらかさ等が良かったことを答えた。

ている。

出嵌人 錦 紡 梨 式 会 社
代理人弁理士 足 立 英 一